

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブルースカジュニア浦和教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	20	(回答数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	報告書の内容が詳細であり、保護者も訪問先からも内容に評価をいただけたこと	報告書は訪問支援を担当した職員が作成しますが、最終チェックとして教室長が添削を行っています。第三者が読んでも内容を理解しやすいか確認すると共に、訪問先の先生方のご指導方針についても汲み取りながら内容を詰めていきます。	ただただ出来事を書くだけの報告書とならないように、訪問支援員が感じた気づきや、お子様の困り感や思いについても汲み取った内容を作成することを心がけていきます。
2	ご家族と、訪問先と、共通理解を持って支援が行われていること	保護者様とは面談を通して、訪問支援に対するニーズを伺っています。報告書をお渡しする際にも、できる限り口頭でもご報告ができるように時間を確保しています。訪問先の先生とは、業間休みのわずかな時間でもコミュニケーションを取れるように、授業に支障のない範囲でご協力をいただけるようお願いをしています。	ブルースカジュニア浦和教室の療育支援があることで、訪問支援の報告が口頭でできないことが多いことが課題だと感じています。報告書の内容を詳細に書くように意識していますが、やはり口頭の方が保護者様の意向もより伺えると思います。人員の確保によって、面談の機会を作りやすい体制と整えたいと考えます。
3	訪問時に見えた課題点について、ブルースカジュニア浦和教室の療育支援でフォローができること	訪問支援を担当した職員から、ブルースカジュニア浦和教室の療育支援を担当する職員へと引継ぎを行い、療育プログラムに組み込むことを連携しています。	訪問支援で見えたお子様の困り感に対して、フォローをするための支援プログラムを用意することができるように、教材を見直したり、職員同士で意見を出し合いながら創意工夫をしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の効果を実感するまでに時間がかかること	訪問支援によってお子様の成長が劇的に感じられることが難しく、訪問先からの評価は高いものではなかった。	訪問支援で見えた課題点に対する、ブルースカジュニア浦和教室の療育支援での取り組みをさらに強化し、学校と療育間での統一感のある支援を確立していきたいと思えます。また、小さな変化や成長について、私たちが前向きにフィードバックをさせていただくことで、お子様が伸び伸びと育っていけるように支えたいと思えます。
2	訪問先との面談の機会が多く取れていないこと	訪問先の先生方のお手すきの時間と、ブルースカジュニア浦和教室の動きやすい時間との差異がある。	夕方の時間に学校に伺うことが人間的に難しく、定期的な面談の機会が作りづらいことが現状です。人員を確保するとともに、専門性のある職員が学校の先生方と情報共有を行うことで、より連携の取れた支援体制を作り上げたいと思えます。
3	報告書の渡し間違えがあり、個人情報の取り扱いの見直しが必要であること	報告書の用意を個々の職員で進めていたこと。	訪問支援の報告書に限らず、療育支援で使われるサービス提供記録なども個人名が載っている大切な書類です。取扱いの見直しと共に、保護者様に手渡す前には職員間でダブルチェックを行うことを徹底しました。